

平成 24 年度文学研究科共同研究経費申請書

研究代表者 (申請者)氏名	内田次信	専門分野・ コース名	文芸学	職名	教授
研究課題名	ギリシア・ローマ神話のアレゴリー—その表現・解釈・理論に関する研究—				
研究目的 [研究の目的、その意義と予想される成果、新規科研費獲得に向けた準備状況などを記入してください。昨年度科研費を申請して不採択になった場合は、研究継続・再申請準備状況も記入してください。]					
研究の目的 神話は往々にして、アレゴリーとして表現されるとともに、アレゴリーとして解釈されることを求める。本研究は、ギリシア・ローマ神話をアレゴリー表現とアレゴリー解釈という相互補完的視座から再記述することを通じて、神話に随伴するアレゴリー性の言語的規制力を分野横断的に照射し、そこから、神話のアレゴリー理論、ひいては文学一般のアレゴリー理論を導出することを目的とする。 本研究の意義と予想される成果 歴史研究としての本研究は、具体的神話表象と理論を往還しつつ、個別的な文学表現をその都度刷新される理論的な手続きによって記述することを通じて、古代における文学の表現と解釈のうちに、字義性からの偏差としてのアレゴリーの意味付与作用を認めるとともに、さらにまた、偏差としてのアレゴリーの意味の相関者である字義的意味を際立たせるという意義を担っている。すなわち、「語っていることとは別のことを意味する。」という端的なアレゴリーの定義（ヘラクレイトス『ホメロス問題（アレゴリー集）』5.2.2）のうちに示されている字義性とアレゴリー性の相関関係は、字義性に対するアレゴリーの恣意性をことさら強調するものではなく、むしろ両者の相補性を示していると理解されるべきであろう。つまり、字義性も、アレゴリーの偏差が存在することにより、一層明確な輪郭を伴って浮かび上がってくるのである。こうした過程は、アレゴリーを通じての字義性の探求という逆理によって支えられている。例えば、新プラトン学派にしばしば認められる、牽強附会とも見える極端な形而上学的神話解釈といえども、神話、ひいては詩的言語の語る真理を可能な限り掬い取ろうとする真摯な試みなのであって、一概に、恣意的であるとして退けられるべきではない。字義性と恣意性の間には無数の質的差別が存在するのであり、その質的差別の振幅に神話や文学の創造的多様性は胚胎している。それゆえ、本研究のもたらす成果とは、ギリシア・ローマ神話という範例的な文学的源泉に深く根差す一方で、時代を超えて現代に至るまで遍在するアレゴリー性のメカニズムを、具体的かつ理論的に開示することである。この成果はまた、言語芸術以外の、例えば造形芸術の研究にも資するところ大であると期待される。造形芸術のアレゴリズムの、少なくとも解釈という局面は、言語を媒介にしているがゆえに、言語芸術の場合と同様に、字義性と、偏差としてのアレゴリーの孕む恣意性との間での相補的關係性が認められるであろう。このように、本研究はさらに進んで芸術一般を記述するための原理的な可能性をも内包している。また、近代美学において重要であるアレゴリーとシンボルの区別についても、本研究の成果に基づいて、一定の展望が与えられるものと期待される。 新規科研費獲得に向けた準備状況 昨年度の科研費（基盤研究(B)代表 内田次信）は不採択であった。今年度もまた、ギリシア・ローマ神話のアレゴリー表現・解釈・理論に関する基盤研究（B）（代表 内田次信）を申請するとともに、新たに、新プラトン派の哲学者プロクロスにおける神話のシンボル解釈に関する基盤研究（C）（代表 加藤浩）を申請する予定にしている。					

研究計画・方法

〔研究計画・方法を具体的かつ詳細に記述してください。また、研究経費（4ページに内訳を記載）の必要性・妥当性を明確にしてください。〕

研究会の開催 本研究の目的を達成するために、3回の研究会を開催する。

第1回目の研究会では、ギリシア神話におけるアレゴリー表現と解釈をテーマに設定する。内田次信、西村賀子、平山晃司、戸高和弘が発表を担当する。内田次信は、ホメロス『イリアス』におけるアレゴリー表現を、トロイア戦争に関わる神話群において浮き彫りにする。西村賀子は、ホメロス『オデュッセイア』におけるアレゴリー表現の究明を通じて、叙事詩における筋とアレゴリーの関係性を明らかにする。平山晃司は、初期アレゴリストの実態を文献学的に再構成し、ギリシアにおけるアレゴリー解釈の端緒を再構成する。戸高和弘は、ギリシアにおけるアレゴリーのレトリック的背景を究明する。

第2回目の研究会では、ローマ神話におけるアレゴリー表現と解釈をテーマに設定する。五之治昌比呂、西井奨、渡辺浩司が発表を担当する。五之治昌比呂は、アプレイユス『変身物語（黄金の驢馬）』の「アモルとプシュケ」の物語のアレゴリー性を究明する。西井奨は、オウィディウス『変身物語』における変身のモチーフのアレゴリー性について考究する。渡辺浩司は、ローマにおけるアレゴリーのレトリック的背景を究明する。

第3回目の研究会では、ギリシア・ローマ神話のアレゴリー理論をテーマに設定する。加藤浩と里中俊介が発表を担当する。加藤浩は、ミーメシス、アレゴリー、シンボルの相関関係を究明し、神話アレゴリーの現出メカニズムを究明する。里中俊介は、ギリシア神話とプラトンの神話の関係性を究明し、哲学的アレゴリーの機構を解明する。

また本研究は、文芸学研究室で組織しているギリシア・ローマ神話学研究会と連動して、研究を進める。第7回ギリシア・ローマ神話学研究会で平山晃司が、第8回ギリシア・ローマ神話学研究会で里中俊介がそれぞれ発表することが既に決定している。

基礎文献の収集

本研究を実効性あるものとするために、大阪大学に所蔵されていない、本研究遂行上不可欠な基礎文献を収集する。

研究成果報告書の刊行

2013年3月に、本研究の総括として、研究成果報告書を刊行する。その経費として、印刷製本費を支出する。

研究組織

氏名	年齢	所属機関・部局・職名	専門分野
内田次信	*	文学研究科・教授	西洋古典文学
西村賀子	*	和歌山県立医科大学・教授	西洋古典文学
加藤 浩	*	文学研究科・准教授	文芸学
五之治昌比呂	*	日本語日本文化教育センター・准教授	西洋古典文学
平山晃司	*	言語文化研究科・講師	西洋古典文学
渡辺浩司	*	文学研究科・助教	レトリック理論
戸高和弘	*	文学研究科・非常勤講師	レトリック理論
西井 奨	*	文学研究科・非常勤講師	西洋古典文学
里中俊介	*	文学研究科・博士後期課程	文芸学

※1行目に研究代表者（申請者）を記入してください。

※本学関係者については所属機関（「大阪大学」）は省略してください。

研究スケジュール

時期	内容
H.24.8.	第1回研究会
H.24.11.	第2回研究会
H.24.12.	第7回ギリシア・ローマ神話学研究会（平山晃司発表）
H.25.2.	第3回研究会・第8回ギリシア・ローマ神話学研究会（里中俊介発表）
H.25.3.	研究成果報告書刊行

外部資金応募・獲得状況（最近5年間のものまたは応募予定のもの）

外部資金の名称 と研究期間	研究課題名・ 研究代表者氏名	全研究期間の 総研究費 (単位：千円)	採 否	本申請との関連性
科学研究費 挑戦的萌芽研究 H. 23-H. 24	「古代ポイエーシス理論 史における新プラトン学 派の位置」加藤 浩		否	新プラトン学派のアレゴリズム解釈の 研究であり、本研究の先蹤を成す。
科学研究費 基盤研究(B) H. 24-H. 26	「ギリシア・ローマ神話 のアレゴリー表現・解 釈・理論に関する総合的 研究」内田次信		否	本研究の方向性を決定した研究であ る。
科学研究費 基盤研究(B) H. 25-H. 27	「ギリシア・ローマ神話 のアレゴリー—その表 現・解釈・理論に関する 研究」内田次信			本年度の科研費申請に応募する研究で ある。
科学研究費 基盤研究(C) H. 25-H. 26	「プロクロスにおける神 話解釈」加藤 浩			本年度の科研費申請に応募する研究で ある。